



C IO VIEW

2020年7月

今後12カ月のグローバル経済
および投資環境の見通し

DWSの見解

マクロ経済

- 世界的に新型コロナウイルスの感染率は依然非常に高い状況が続いている。先進国においては再び感染が流行しそうである。
- 新型コロナウイルス封じ込めがこのところ前進しているとは言え、パンデミックの間接的なコストは引き続き増加している。我々の基本的な予測には一定程度この点が反映されている。
- しかし、政治的な安定、社会的結束、世界の生産能力について全体的な影響を評価するのははまだ時期尚早である。

株式

- 我々は今後12カ月の株価指数目標全てについて前回のレビューミーティングから変更していない。これは、上昇余地に限りがあることを示唆している。
- 株価指数目標を導き出すのに、我々の基本的なバリュエーションモデルを十分幅広に検証したと考えている。
- 足元では回復の兆しがあるものの、リスクは残ったままである。このような不確実要素が根底にある中で、短期的な下落の余地はあるが、選択的な機会もある。

債券

- 国債の新規発行がある一方で、中央銀行が購入していることから、国債利回りは横ばいとなるだろう。
- 社債は大幅に回復したが、それでもまだ有望な投資機会があると見ている。中央銀行による下支えがとりわけその理由である。
- 我々は引き続き新興国債券、特にアジアの債券を選好する。

オルタナティブ

- 新型コロナウイルスのパンデミックによって、2020年の世界のエネルギー需要は近代史最大の落ち込みとなる見込みである。
- 特に欧州においては、コロナ禍は再生可能エネルギーやスマートグリッドに向けて現在進んでいるエネルギーの転換を促進する可能性がある。
- 電力市場に足を踏み入れる先見の明のある投資家にとっては、豊富な投資機会があるだろう。

マルチアセット

- 経済、市場、パンデミックのそれぞれの動きは様々に解釈することができる。現時点では、過度に楽観的な見方が優勢を占めている。
- 夏の休暇シーズンによってロックダウン緩和の動きが逆行することになっても、経済が再び世界的に停止するようなことにはならないと見込んでいる。
- 我々の見解では、金融・財政政策が株式と社債を下支えする主な要因となっているが、現時点ではコモディティと金についても目を向ける価値があるだろう。

ESG(環境・社会・ガバナンス)

- 過去2年間、我々は持続可能な開発目標(SDGs)を投資判断プロセスに組み込んできた。
- これによって真のSDGリーダーを特定することができ、リスクを軽減しつつ投資機会を捉えることができるようになっていく。
- SDGのエクスポージャーが最も大きなセクターは、ヘルスケア、テクノロジー、不動産である。

正常に戻る。しかし、「正常」とは何か？

記録的な市場の下落に続いて、記録破りの景気刺激策が講じられ、それが急速な市場の反発につながりました。しかし経済の回復にはまだいたっていません。

「『新型コロナウイルス危機によって各国政府や中央銀行の影響力が高まり、様々な市場メカニズムが停止しました。これは長期的にはリスクとなります。短期的には、投資家は支援策が市場にもたらしたプラス効果を活かすことができるでしょう。』」

ステファン・クロイツカンブ
チーフ・インベストメント・オフィサー



新型コロナウイルスとその余波が引き続き人々の生活、経済、株式市場に大きな影響を与えています。以前にウイルス感染の中心地であった欧州大陸で状況が沈静化し、ロックダウンの解除が加速しているものの、ウイルスが引き続き世界中で猛威を振るっているという事実を見過ごすことはできません。特に中南米など新たに感染の中心地となっている地域に加えて、英国および米国において新規感染者数が高止まりしているのも顕著です。それにもかかわらず、これら各国の政府も断固として通常の生活に戻ろうとしています。

米国人の多くは、外出自粛という理由ではなく外出禁止令という理由によって今でも自宅にとどまらざるを得なくなっています。警察の手による暴力でアフリカ系米国人ジョージ・フロイド氏が死亡したことで、米国の多くの都市において何週間にもおよぶ抗議活動に火が付きました。抗議活動やパンデミックに対するトランプ大統領の対応がどのように大統領選に影響するかが、この夏、投資家の念頭に置かれることになるでしょう。

ほとんどの国で4月、または遅くとも5月には経済が底を打ったと我々は想定しています。感染率がさらに高まる国や地域が出てくることがあると予想はしているものの、この春のような世界全体がロックダウンされる事態は再びないと見込んでいます。日常生活が戻りつつあります。最初はそのスピードは速く、その後穏やかになるでしょう。世界の経済生産が2019年後半の水準に戻るのには2022年末となる見込みです。

しかし、「正常に戻る」という言葉は注意して使う必要があります。治療法が進化し、ウイルス対処の経験が蓄積されてきたとはいえ、ウイルスは多くの人にとって引き続き脅威であり、当面の間は経済生活や社会生活に多大な影響を与えられと考えられます。

経済にとっても「正常に戻る」のは難しいようです。経済の落ち込みの大きさを忘れてはなりません。輸送、自動車販売、観光など様々な分野で80%以上の経済活動の減少が記録されました。その結果、第2四半期の先進国の経済成長率は、史上最大となる前年比マイナス10%以上となる可能性が高いと考えられます。2020年全体の見通しもありよくありません。ユーロ圏経済成長率は前年比マイナス7.5%、米国経済成長率はマイナス5.7%になると我々は予測しています。加えて、特に米国において失業率が前例を見ないほど急激に高まりましたが、これが長期的にはどのように元の水準に戻るかどうかについても不透明です。

他にもマイナス要素があります。今般の危機で保護主義や反グローバル化の動きがいつそう高まりました。プラス要素としては、デジタル化も進行しました。一方で、政府による経済への大規模な介入には大きな問題があります。各国の債務状況が記録的高水準となっていることと合わせて、政府による経済への介入は潜在成長に長期的にマイナスの影響を与えかねないゆがみを作り出す恐れがあります。

中央銀行にとっても、「正常」とは遠い昔の概念のようです。今世紀初頭から、中央銀行が投資家を救済し、資本市場の混乱や経済の落ち込みを迅速に引き受ける意思や力があるという期待が高まってきました。新型コロナウイルス危機を緩和するための記録的な救済策は論理的ではなかったとは言えないでしょう。利下げが実行され、何十億ドルという支援策は何兆ドルという規模に引き上げられ、資産購入の対象となった市場セグメントは広がりました。米連邦準備制度理事会(FRB)のバランスシート合計だけでも、今年は4兆ドルから10兆ドルに拡大する可能性があります。しかしこの結果は複雑なものになりそうです。

このような状況において、資本市場の「正常」とはどのようなものになるのでしょうか。債券については、危機以前のトレンドが決定的なものになり、国債利回りは大幅な上昇が現在のところ全く見込めず、低い水準に留まっています。そして、「現在のところ」という点を危機以前にも増して強調する必要があります。大規模な財政刺激策や債務の急拡大によって、2019年末と比較すると大幅なインフレ率の上昇がまったく非現実なものではなくなっています。

インフレ連動債券がこのような環境で恩恵を受けることでしょう。銘柄によっては、社債や新興国も再び十分なリターンを期待できると予測されます。我々は特にアジアに投資機会があると見ています。アジアは現段階では他の地域よりも新型コロナウイルスの対応に優れており、引き続き低い原油価格からも恩恵を受けるでしょう。全般的に、コロナ危機が招いた利回りの大幅な上昇を受けて、特にハイ・イールド債のリスクリターン特性が大きく改善したと考えています。

株式のリスクリターン特性はどうでしょうか？ MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックスで測ると、株式は既に2019年11月の水準で取引されており、ナスダック総合株価指数は年初来を上回っています。¹ この点についてもテクノロジー株が好調であることを反映しています。一方で、株式ユニバースでは、新型コロナウイルスによってヘルスケアセクターも注目されるようになりました。相対的に見ると、我々はこの2つのセクターを

引き続き選好しています。しかし、絶対的な観点からは、現在のバリュエーションを正当化することは難しいと言えます。これは市場全体に言えることです。2022年の企業収益が2019年と同じであると想定してそれを現在に割り引いて考えると、例えば、S&P500種株価指数のバリュエーション(株価収益率)は危機以前の水準を上回っています。正常であれば、これは割高であると見なされます。しかし、正常の状態とは何でしょうか？ 景気循環は今までに不透明で、そう遠くない未来に、インフレなのかデフレなのか、何に悩まされることになるのかは不確実です。さらに、中央銀行は急速にバランスシートを拡大し続けています。このような異常な状況において、株式などインフレ抵抗力のある資産が望ましいという結論に達する投資家が増えているようです。中期的には株式のリターンは穏やかではあるものの、デジタル化や自動化の進行、スマートシティ開発といったメガトレンドから利益を上げるセクターもあると我々は予測しています。収益回復の遅れでバリュエーションが試される中、現金の分配も重要な問題になります。コロナ危機を受けて企業が配当できるかどうか多くの投資家が疑問視しており、高配当戦略は苦戦しています。ただし、優れた配当株を選定することで、この混乱をうまく切り抜けることができました。注目すべきなのは、以前も今も、配当の量だけでなく、配当の質であると我々は考えています。つまり、企業が配当に必要なキャッシュフローを生み出せる力があるかどうかということです。ある程度の経済回復が見込める中、選別された景気敏感株にも再び投資妙味が生まれてきました。我々は鉱業株と特定の素材株に注目しています。

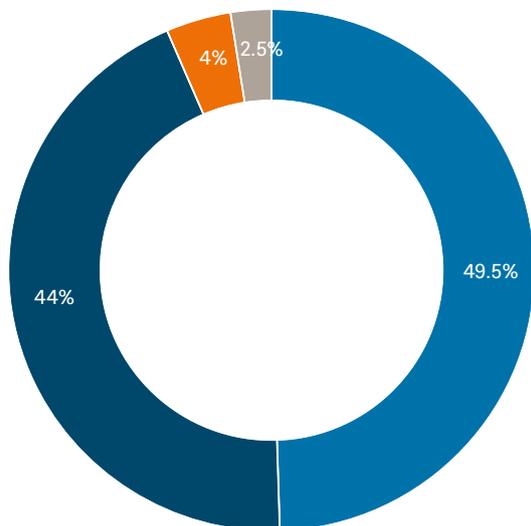
株式のリターンは一桁台前半であると予測しています。今後12カ月については、新型コロナウイルス、米中貿易摩擦、反グローバル化、異常な経済トレンド、米国大統領選といった方向性を見通せない要因を踏まえて、特定の債券およびオルタナティブ投資については、金、不動産投資、円などを追加することでさらなる混乱に備えた幅広いポジションを取ったポートフォリオが有効でしょう。

¹ リフィニティブ データストリーム、2020年6月4日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年6月5日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

欧州の投資家向けアセットアロケーション

現状のトレンドから利益を得、機会を求め、リスクに注視する。

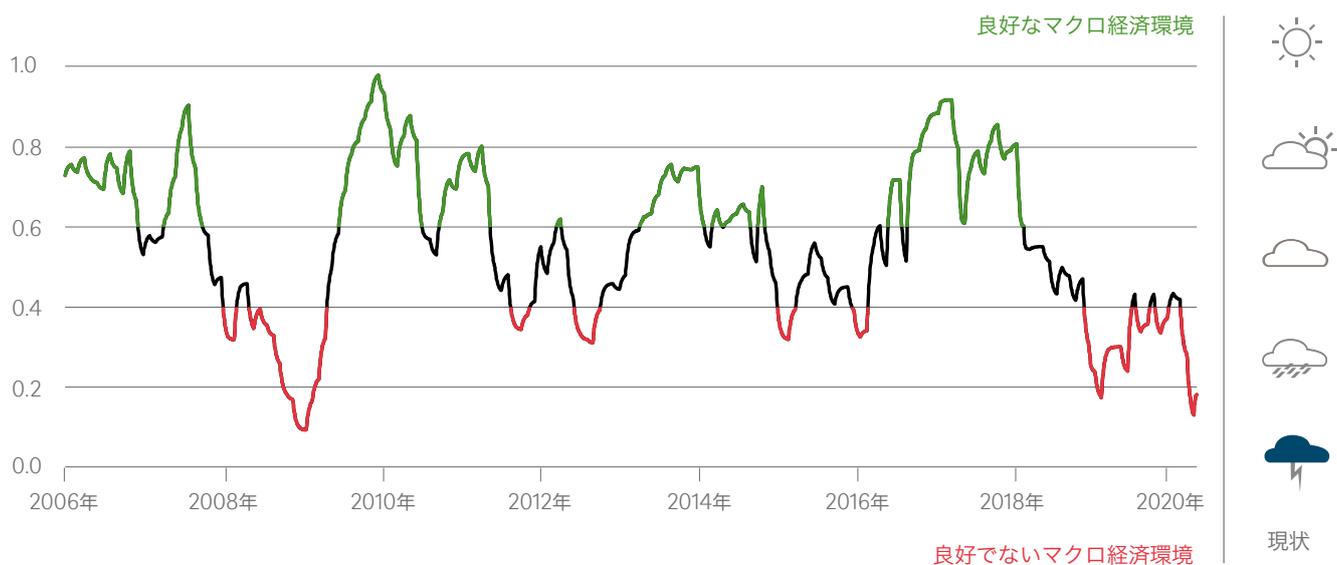


株式	49.5%
米国株式	27.5%
欧州株式	8.5%
新興国株式	6%
グローバル株式	5%
日本株式	2.5%
債券	44%
ユーロ投資適格社債	15%
ユーロ圏ソブリン債	9%
新興国(主要通貨建)債券	6%
米国国債	5%
ユーロ・ハイ・イールド社債	5%
米国ハイ・イールド社債	2%
米国投資適格社債	2%
オルタナティブ	4%
コモディティ	4%
現金	2.5%

出所: マルチアセット・グループ、DWSインベストメントGmbH、2020年6月19日時点

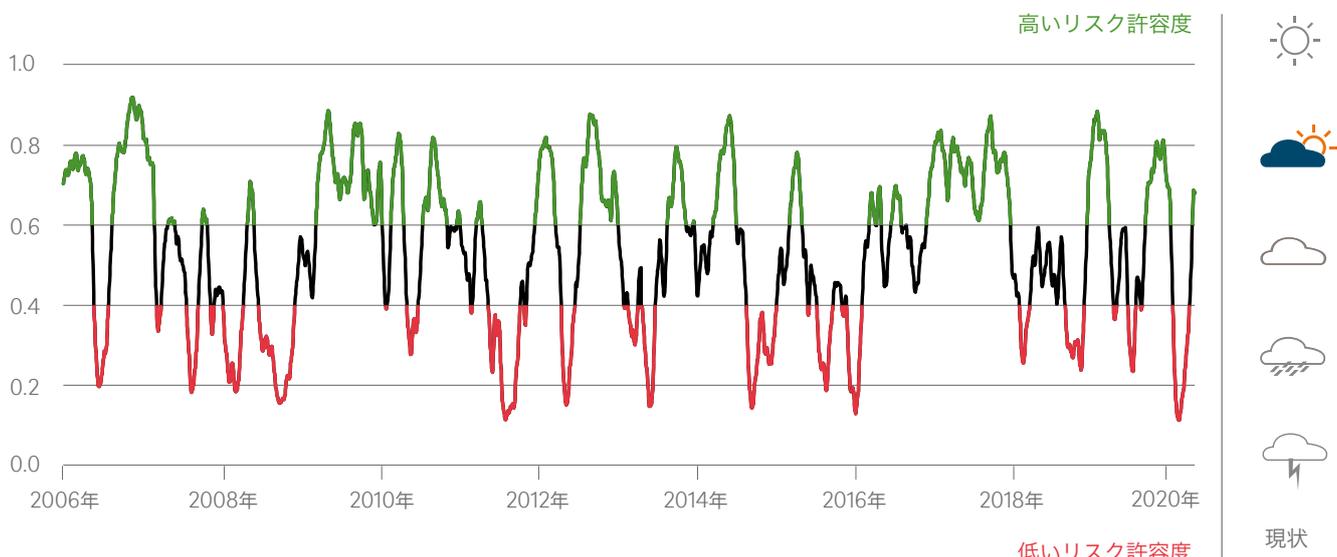
上記アセットアロケーションは、DWSが現時点で考えるユーロ建のバランス型ポートフォリオです。すべてのお客様に適しているものではありません。また、予告なく変更されることがあります。

マクロ経済指標 / マクロ経済指標は広範な経済指標を集約したものです。

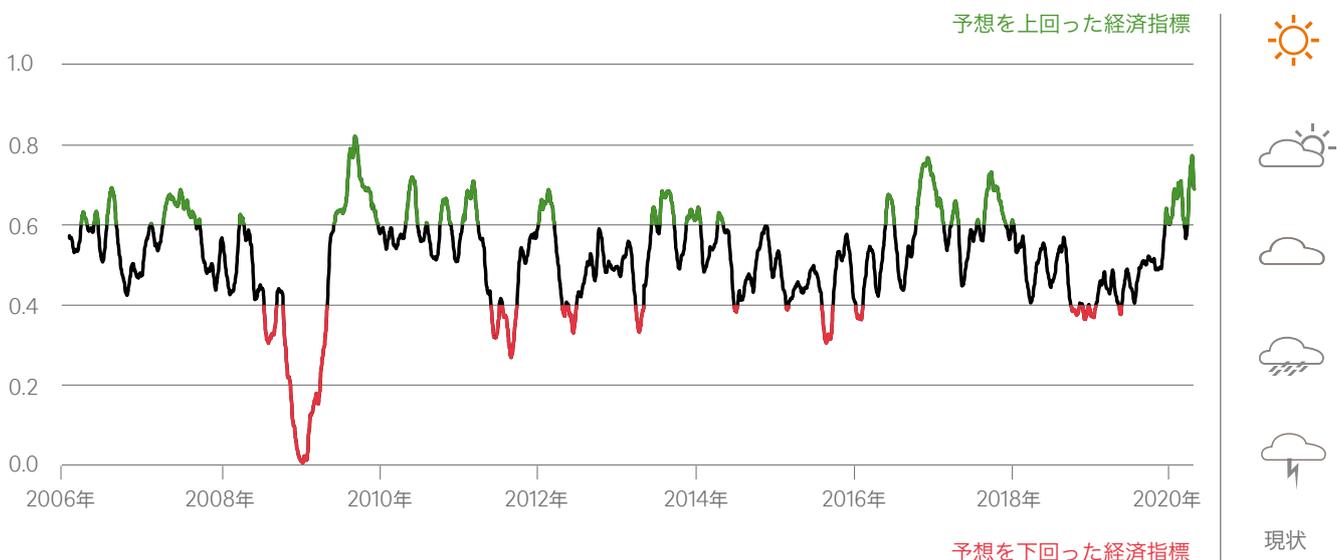


当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年6月18日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

リスク指標 / リスク指標は金融市場における投資家の足元のリスク許容度を反映したものです。



サプライズ指標 / サプライズ指標は実際の経済指標と事前の市場予想を比べたものです。



出所: DWSインベストメントGmbH、2020年6月16日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年6月18日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

マクロ経済／ある種の回復

GDP成長率(対前年比、単位：%)

	2020年(予測)		2021年(予測)
米国	-5.7	↗	5.6
ユーロ圏	-7.5	↗	4.5
英国	-8.0	↗	6.5
日本	-5.5	↗	3.3
中国	1.0	↗	9.0
世界	-3.1	↗	5.5

消費者物価指数(単位：%)

	2020年(予測)		2021年(予測)
米国 ¹	1.2	↗	2.1
ユーロ圏	-0.3	↗	1.0
英国	0.9	↗	1.8
日本	-0.3	↗	0.1
中国	2.8	↘	1.8

指標金利(単位：%)

	現在値*		2021年6月(予測)
米国	0.00-0.25	→	0.00-0.25
ユーロ圏	-0.50	→	-0.50
英国	0.10	→	0.10
日本	0.00	→	0.00
中国	3.85	↘	3.55

* 出所：ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2020年5月29日時点

¹ コアレート、12月個人消費支出(前年同月比)(%)

予測は2020年5月28日時点の見通しです。

WTI：ウェスト・テキサス・インターミディエート

LME：ロンドン金属取引所

財政赤字(対GDP比、単位：%)

	2020年(予測)		2021年(予測)
米国	17.8	↘	7.0
ユーロ圏	7.5	↘	3.6
英国	8.5	↘	4.6
日本	7.0	↘	2.8
中国	11.2	↘	9.6

経常収支(対GDP比、単位：%)

	2020年(予測)		2021年(予測)
米国	-2.1	↘	-2.3
ユーロ圏	2.6	↗	2.7
英国	-3.8	↘	-4.5
日本	2.5	↗	3.0
中国	0.4	↗	1.0

商品市況(米ドル建)

	現在値*		2021年6月(予測)
原油(WTI)	35.5	↗	43
金	1,730	↗	1,830
銅(LME)	5,377	↗	6,060

当ページ以降の記号表記について

株価指数、為替相場及びオルタナティブ投資：

矢印は以下の見通しを示します。

(↗) 堅調な推移、(→) 横ばい傾向、(↘) 下落の可能性

債券：

ソブリン債の場合、矢印は以下の見通しを示します。

(↗) 利回り上昇、(→) 横ばい傾向、(↘) 利回り下落

社債や証券化商品等、新興国債券の場合、矢印は米国国債に対するスプレッド(利回り格差、オプション調整後)の見通しを示します。

(↗) 利回り格差の拡大、(→) 横ばい傾向、(↘) 利回り格差の縮小

矢印の色はロングオンリー戦略でのリターンの見通しを示しています。

● ロングオンリーの投資家にとってプラスリターンの可能性

● プラスリターンの機会は限定的で、マイナスリターンの可能性もあり

● ロングオンリーの投資家にとってマイナスリターンの可能性

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年5月29日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

株式／稀に見る非常に速い反発

	現在値*	2021年6月 (予測)		企業利益成長率 (予測)	株価収益率 への影響	配当利回り
		予測値	トータルリターン (予測) ¹			
米国(S&P500種株価指数)	3,044 ●	3,100	3.5%	-5%	7%	1.6%
欧州(ストックス・ヨーロッパ600指数)	350 ●	370	8.9%	-7%	13%	3.3%
ユーロ圏(ユーロ・ストックス50指数)	3,050 ●	3,150	6.6%	-8%	11%	3.3%
ドイツ(DAX指数) ²	11,587 ●	12,000	3.6%	-7%	8%	2.8%
英国(FTSE100種指数)	6,077 ●	6,300	7.7%	-12%	15%	4.0%
スイス(SMI指数)	9,831 ●	10,150	6.3%	-1%	4%	3.0%
日本(MSCI ジャパン・インデックス)	946 ●	950	2.6%	-11%	12%	2.1%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス(米ドル建)	930 ●	1,000	10.0%	0%	8%	2.6%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス(米ドル建)	601 ●	660	12.1%	1%	9%	2.4%

* 出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、ファクトセット・リサーチ・システムズ、2020年5月29日時点 予測は2020年5月28日時点の見通しです。

¹ トータルリターン(予測)は、利回り、配当、キャピタルゲインを含みます。

² トータルリターン・インデックス(配当込)

債券／利回りは再び低水準に留まる

米国

	現在値*	2021年6月(予測)
米回国債(10年物)	0.65% ●	0.90%
米国地方債 ¹	125% ●	90%
米国投資適格社債	164 bp ●	165 bp
米国ハイ・イールド社債	637 bp ●	640 bp
証券化商品: モーゲージ証券 ²	67 bp ●	50 bp

欧州

	現在値*	2021年6月(予測)
ドイツ国債(10年物)	-0.45% ●	-0.50%
英国国債(10年物)	0.18% ●	0.50%
ユーロ投資適格社債 ³	175 bp ●	150 bp
ユーロ・ハイ・イールド社債 ³	573 bp ●	600 bp
証券化商品: カバードボンド ³	50 bp ●	50 bp
イタリア国債(10年物) ³	192 bp ●	190 bp

* 出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2020年5月29日時点

¹ 10年物米回国債に対する10年物地方債(AAA格)の比率

² ブルームバーグ・パークレイズMBSフォワード・インデックス

³ ドイツ国債に対するスプレッド

アジア太平洋

	現在値*	2021年6月(予測)
日本国債(10年物)	0.01% ●	-0.10%
アジア社債	379 bp ●	350 bp

世界

	現在値*	2021年6月(予測)
新興国ソブリン債	516 bp ●	525 bp
新興国社債	458 bp ●	450 bp

通貨

	現在値*	2021年6月(予測)
ユーロ(対 米ドル)	1.11 →	1.10
米ドル(対 日本円)	108 →	105
ユーロ(対 英ポンド)	0.90 →	0.90
英ポンド(対 米ドル)	1.23 →	1.22
米ドル(対 中国元)	7.14 →	7.30

予測は2020年5月28日時点の見通しです。

bp=ベースポイント

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年5月29日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

パフォーマンス / 概要

過去12カ月毎のパフォーマンス

	2015年6月 -2016年6月	2016年6月 -2017年6月	2017年6月 -2018年6月	2018年6月 -2019年6月	2019年6月 -2020年6月
アジア社債	7.4%	3.1%	-0.7%	10.0%	5.4%
DAX指数	-11.6%	27.3%	-0.2%	0.8%	-0.7%
新興国ソブリン債	10.3%	5.5%	-2.4%	11.3%	1.5%
新興国社債	5.6%	7.0%	0.1%	10.7%	4.6%
ユーロ・ハイ・イールド社債	2.2%	9.8%	0.8%	5.2%	-2.2%
ユーロ投資適格社債	5.0%	1.2%	1.1%	4.8%	-0.5%
ユーロ証券化商品:カバードボンド	3.5%	-0.9%	0.9%	3.2%	0.9%
ユーロ・ストック50指数	-13.9%	23.3%	1.3%	5.1%	-5.1%
FTSE100種指数	3.8%	16.9%	8.7%	1.5%	-13.7%
ドイツ国債(10年物)	8.4%	-3.5%	2.6%	5.7%	0.8%
イタリア国債(10年物)	11.3%	-3.5%	-1.4%	8.8%	7.3%
日本国債(10年物)	6.0%	-2.4%	0.7%	2.0%	-1.3%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス	-12.0%	26.7%	9.9%	-0.5%	1.7%
MSCI AC ワールド・インデックス	-5.7%	16.5%	8.6%	3.6%	0.3%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス	-12.1%	23.7%	8.2%	1.2%	-3.4%
MSCI ジャパン・インデックス	-8.9%	19.2%	10.5%	-4.2%	3.1%
ナスダック100指数	1.8%	29.4%	26.0%	10.2%	33.8%
S&P500種株価指数	4.0%	17.9%	14.4%	10.4%	7.5%
ストック50・ヨーロッパ600指数	-10.4%	18.8%	3.5%	5.1%	-3.8%
SMI指数	-5.5%	14.9%	0.0%	18.8%	4.9%
米国ハイ・イールド社債	1.6%	12.7%	2.6%	7.5%	0.0%
米国投資適格社債	7.6%	1.8%	-0.6%	10.3%	9.1%
米国証券化商品:モーゲージ証券	4.3%	-0.1%	0.1%	6.2%	5.7%
米国国債(10年物)	9.4%	-4.0%	-1.8%	10.1%	12.8%
英国国債(10年物)	11.5%	-0.6%	0.7%	5.7%	6.3%

出所:ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2020年6月末時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年6月30日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

会社紹介

DWSについて¹

すべての主要な資産クラスを網羅した商品及び運用ソリューションを通じて、幅広い投資機会へのアクセスを投資家に提供。その運用ソリューションは投資信託から高度にカスタマイズされたポートフォリオの構築まで多岐にわたる

個人投資家及び機関投資家のお客様に、伝統的資産からオルタナティブに至る幅広い資産運用ソリューションを提供

約7,000億ユーロの運用資産残高(2020年3月末時点)を誇る世界有数の資産運用機関

チーフ・インベストメント・オフィスについて

DWSのグローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーであるステファン・クロイツカンプが統括し、DWSの運用プロセスの中心的役割を果たす

経済及び市場に関する統一された見解の策定のため、グローバルな運用体制が有する専門性を集結

グローバル投資見通しであるCIOビューを策定する

ポートフォリオ・マネジメント、調査及び営業チームの連携のための窓口となり、円滑な意思疎通を可能にする

¹ DWSはDWSグループGmbH&Co.KGaA及びその子会社が事業活動を行う上でのブランド名です。DWSの商品やサービスは、契約書、合意書、提案資料または該当商品やサービスの関連書類に明記された法人よりお客様へ提供されます。

※2018年3月、ドイツ・アセット・マネジメントは、欧州、特にドイツにおいて広く認知されている「DWS」を世界共通ブランドとして採用しました。

ご留意事項

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成し、2020年7月8日に発行したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。市場や経済に関するデータや過去の運用実績は記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。投資にはリスクが伴います。価格変動等により、当初投資元本を割り込むことがあります。

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第359号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社は、DWSグループの日本における拠点であり、投資信託ビジネス・機関投資家向け運用ソリューションの提供における長年の経験、ノウハウ及び実績を有します。グローバルな運用体制と独自の洞察力を駆使した質の高いサービスをご提供するとともに、日本市場の資産運用ニーズに的確にお応えすることを目指します。

